

# 掘り day はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第8号—



## 旧石器時代の遺跡出現！

田向冷水遺跡の調査では、ナイフ形石器等の旧石器時代の遺物が大量に出土しました。

旧石器時代とは、今から 15,000 年以上前、縄文土器が出現する前の時代を指します。したがって、土器は一切出土しません。また、日本の旧石器時代の遺物は酸性の火山灰土壤に含まれるために、骨などの有機物も溶けてなくなってしまい、見つかる遺物は石器だけです。

写真のナイフ形石器は、全国的に出土する旧石器時代の文化様式を特徴づける石器で、突き刺す、切り削ぐといった機能が考えられています。



ナイフ形石器（実物大）

## 田向冷水遺跡 - 旧石器時代の調査 -

田向冷水遺跡は、市民病院から南西に100m程離れた、標高8～20mの台地上に位置します。今年度は約20,000㎡の調査を行ない、旧石器時代の遺物のほかに、縄文・古代・近世の遺物・遺構が検出されました。

今回の調査において、特に注目されるのは、旧石器時代の石器が約8,000点も発見されたことです。地表面から2m近く掘ると、高館火山灰層という固くて赤い地層があります。その最も上の部分から石器は見つかりました。地層の年代からみて、この旧石器の年代はおよそ24,000年～15,000年前と推測されます。

東北地方の旧石器時代の石器には、加工しやすい頁岩という石をよく利用しています。田向冷水遺跡でもナイフ形石器、スクレーパーなどに頁岩

が使われていますが、頁岩を利用した石器の数はそれほど多くありません。

最も多く利用されているのは珪岩という石です。しかし、頁岩と異なり、珪岩は思ったおりに割れないため、石器作りには不向きな性質を持っています。実際、出土した石器は、形や大きさが千差万別なので加工の難しさを物語っています。これら珪岩の石器を「石片」と呼んでいます。どのように使ったのか、何を作ろうとしたのか、今のところわかっていません。

旧石器時代の遺跡は、八戸では初めて発見され、八戸の歴史がさらにさかのぼることがわかりました。来年度以降の田向冷水遺跡の調査によって、八戸の旧石器時代の様子が次第に解明されていくことでしょう。  
(杉山 陽亮)



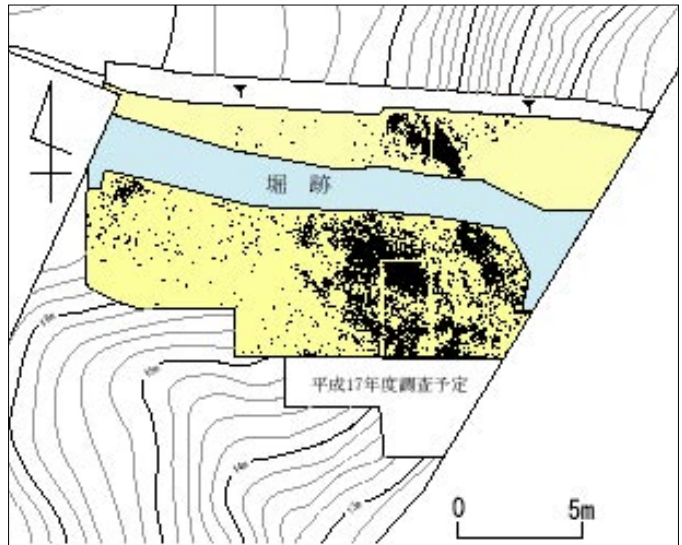
旧石器調査区



石器の出土状況



出土した珪岩の石片・原石



石器の分布 (黒点が石器の出土地点)



出土した石器

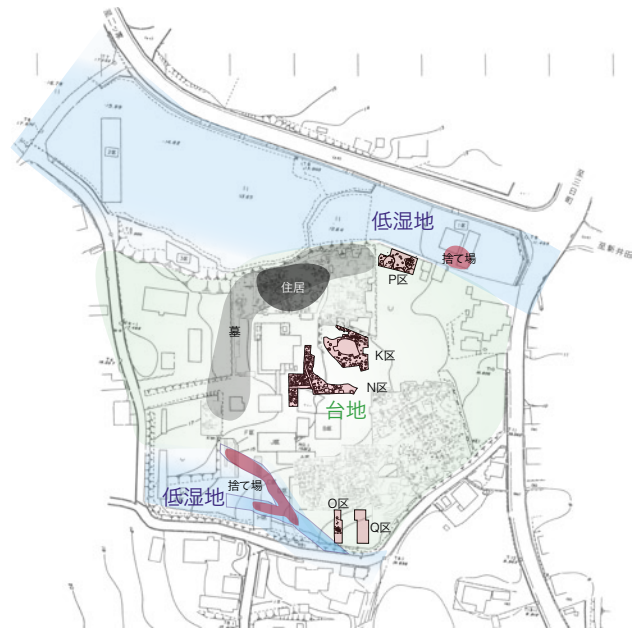
## 是川中居遺跡 - 平成16年度発掘調査成果 -

今年度はKNOPQの5つの地点を調査し、縄文時代後期中頃の竪穴住居、晩期の配石・盛土のほか、弥生時代前期のお墓を発見しました。

これまでの調査により、縄文晩期のムラの様子がしだいにできてきました。O・Q区で見つかった盛土は、晩期中ごろより以前に、沢へと向かう傾斜地を土木工事したものです。さらにその上に石を並べた施設を作っていました。また南の沢には、捨て場や水さらし場をつくり、さらに沢の南岸に平行する溝を掘り、捨て場で埋まった沢の水を迂回させていました。このように縄文晩期中の中居縄文人は、積極的に自然環境を改変して、自分たちのムラづくりをし、沢の水場を中心に暮らしていたようです。

P区からは縄文後期中頃の竪穴住居跡が、K区からは弥生時代前期の土坑墓・土器棺墓が発見されたことから、縄文後期から弥生前期まで連続して集落が営まれていたことも分かってきました。

(小久保 拓也)



縄文晩期中の中居遺跡

色が塗られているのが今年度の調査区。



土器棺墓



配石遺構



土坑墓から出土した玉と石鏃

(K区/弥生時代前期)

玉61点と石鏃3点と一緒に埋葬されていました。

## 遺物の保護 - 是川中居遺跡から出土した木製品の保存処理 -

是川中居遺跡H区からは、2,700点もの木材が見つかっています。私は、保存科学という文化財を保存する為の技術を使って、これらの発掘された木材の保存処理をしています。

奇跡的に残った木材も、実は木材の主成分は腐って無くなり、染み込んだ大量の水によってかろうじて形を保っているだけなのです。ちょうど高野豆腐のような状態で、押すと水が染み出て、潰れてしまうほど脆くなっています。これでは保管しておく事も、展示することもできません。また、普通に乾燥させると元の形が分からない程に変形してしまいます。そこで保存処理が必要になります。

現在、PEG（歯磨き粉や化粧品などに使われている）、ラクチール（砂糖の一種）という薬

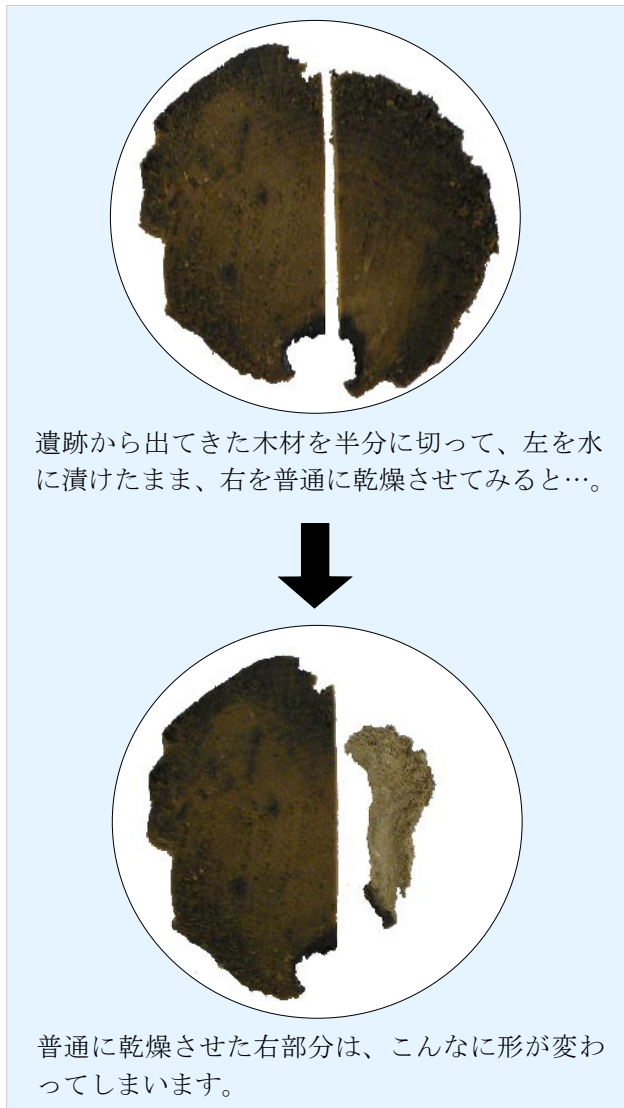
品や、PEG含浸槽、真空凍結乾燥機（フリーズドライするための機械）などを使って、2,700点のうち、800点まで終了しました。

現在発掘されたものを、出来るだけそのままの状態でも保存しておけば、今は分からないことが、数十年後に明らかになるかもしれません。

（福士 明日香）



PEG含浸槽



PEG含浸作業のようす



保存処理が終わった木材

## 市子林遺跡 - 文様が付けられた土師器 -

市子林遺跡の調査では、7世紀後半と考えられる竪穴住居跡から、沈線文様がある土師器の壺と、底部に文様のある土師器の甕が出土しました。

縄文土器や弥生土器とは異なり、一般に土師器には、文様はありません。しかし、東北地方には稀にこのように文様が施されるものもみられます。

土師器の壺には、胴部の上半分と首の部分に尖った工具でひっかいてギザギザの文様が付けられています。

土師器の甕は、底部を成形して出っ張らせ、底面にかざぐるま状の文様を削りだしています。また、胴部の外側には沈線が巡らされています。

これらが出土した竪穴住居は、一辺が約5.6mの隅丸方形で、北壁の中央付近にカマドが作られていた跡がありました。遺物は他に、土製紡錘車1点、土製勾玉1点、丸玉2点などが出土しています。  
(渡 則子)



文様のある土師器壺



文様の拡大写真



底部に文様のある土師器甕

## 江戸時代の民家を掘る

最近、市内の東南部から、発掘調査による江戸時代の民家の発見が相次いでいます。田向、新井田、松館などの、田園地帯として知られる地域でのことです。

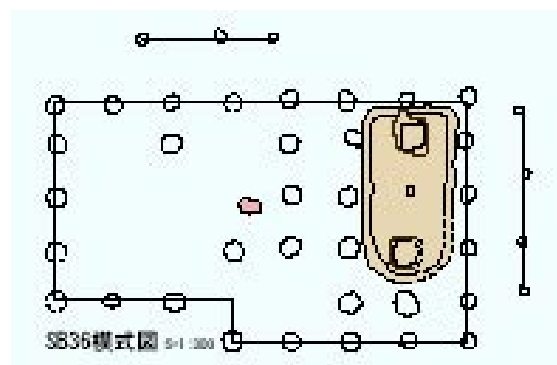
田向遺跡からみつかった図の建物は、日常生活を送る母屋(おもや)と馬屋が一体化した直屋(すごや)と呼ばれる形をしています。我々が住む南部地方といえば曲り屋(まがりや)が有名ですが、実際は直屋が一般的です。

私の田舎では、数十年前までこのような家が多く残っていました。しかし、時代の波はあらゆるところに押し寄せ、茅葺き屋根から草木の生えた、あののどかな風景を今はみることができません。

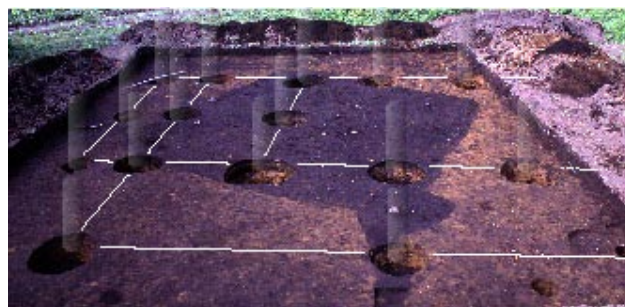
近頃、古民家は人気を集め、保存・再生・活用の対象となっているようです。こうした状況を喜ばしく思う一方で、かつて存在した原風景やそこの生活様式は、決して取り戻すことはできないのだと感じています。

写真は、平成16年度の調査で松館遺跡からみ

つかった、江戸時代の終わりころの建物です。立派な柱が並ぶ様子を想像しながら、過ぎ行く過去に思いを馳せる今日この頃です。(小保内 裕之)



田向遺跡から発見された掘立柱建物跡



松館遺跡から発見された掘立柱建物跡

## 平成16年度 八戸市遺跡報告会が開催されました

11月28日(日)午後1時30分から、八戸市総合福祉会館多目的ホールにおいて、平成16年度遺跡調査報告会を開催しました。

八戸市教育委員会が行った調査に関しては、青森県で3例目の旧石器時代の発掘調査事例となる田向冷水遺跡や、是川中居遺跡の調査について報告しました。

また、青森県埋蔵文化財センターの茅野嘉雄氏と階上町教育委員会の森淳氏をお招きし、茅野氏には奈良時代の住居から「か帯金具」(当時の役人の帯金具)が出土した八戸市瀧野遺跡について、森氏には、鹿角製腰飾りが完全な形で出土した階上町寺下遺跡について発表していただきました。

新聞・テレビなどで取上げられた貴重な出土遺物を見学できるとあって、会場にはたくさんの観客が詰めかけ、熱心に発表に聞き入っていました。

(渡 則子)



## 是川縄文の里シンボルマーク決定!!

是川縄文の里のシンボルマークが決まりました。シンボルマークの製作は、八戸工業大学第二高等学校美術コースの生徒さん達にお願いしたもので、遺跡の景観や出土品の文様を題材として一生懸命に取り組んでいただきました。

シンボルマークは、過去から未来への時間の流れをイメージしたもので、赤と黒は是川遺跡を代表する漆の色をあらわしています。

八戸市では、今後、シンボルマークを活用して是川遺跡を幅広くPRしていきます。(宇部 則保)



## 蘇る縄文の漆

是川縄文の里整備事業において、平成11・12年度に出土した是川遺跡出土の木胎漆器(台付皿・鉢)の復元製作を実施しました。是川遺跡の漆器は、現在までの分析結果から、トチノキを用いて容器を作り、漆を3回塗っていることが分かっています。

復元は、岩手県安代町の漆器センターに依頼し、縄文時代の技法を用いたものと、漆塗りを5回行う現代の技法(安比塗)を用いたもののそれぞれ2点を製作しました。また、復元製作の工程をビデオに記録し、縄文時代の漆工芸の調査研究や展示等に活用する予定です。(大野 亨)



縄文時代の技法を用いて復元した漆器

## あなたの街の「南部会館」

みなさん、市庁前に古びた立派な門があることを知っていますか？—最近では夜になるとライトアップされているので、見たことのある方も多いと思います。

この門は、県重宝の「八戸城角御殿表門」といって、八戸藩政時代の1797年に角御殿の表門として建てられたものです。残念ながら、1978年に雪の重みで倒壊し、現在の門は1980年に復原されたものです。しかし、以前の風格はまったく衰えていません。

八戸城角御殿表門をくぐると「南部会館」があります。この南部会館は昭和60年に建て替えられ、現在は貸し館として利用されています。毎日お茶や、舞踊、〇〇教室など、多種多様な催しが行われています。

平成16年度には、南部会館と八戸城角御殿表門を知ってもらいたいとの思いから、八戸三社大祭期間の5日間と、八戸えんぶり開催期間の4日

間、八戸城角御殿表門を開門し、無料休憩所として南部会館を開放しました。なんと延べ約6,100人の方に利用していただきました。

平成17年度も同様に、八戸三社大祭・八戸えんぶり期間中は無料休憩所として開放しますので、皆さんどうぞお誘いあわせの上、ご利用ください！  
(根城 昌代)



三社大祭でにぎわう南部会館（2004年夏）

## 激動の1年を振りかえって - 文化課で365日 -

文化課埋蔵文化財班に配属されてまもなく1年になります。この1年、埋蔵文化財をはじめとして、三社大祭・えんぶりといった民俗文化財、庭園・門等の建造物類、カモシカ・ウミネコの繁殖地蕪島・種差海岸と、「文化財」という言葉の幅広さを感じる日々でした。夏場は、主に田向冷水遺跡で旧石器の調査を担当しました。移植ゴテで一削りするとざくざく出てくる石片に、途方にくれたこともありました。旧石器の調査は来年度も続きます。旧石器時代に八戸にやってきた人達は、どんな人達だったのか？そんな疑問に答えられるよう、勉強しながら調査をすすめていきたいと思っています。

ホームページでも時々発掘調査の情報を更新しています。そちらも是非のぞいてみてください。

(埋蔵文化財班 船場 昌子 八戸市出身)



クジラも発掘!!

標本になってもうすぐ帰ってきます。  
(埋蔵文化財班もボランティアで参加しました)



平成 16 年度 八戸市内発掘調査

	遺 跡 名	開発内容等	所 在 地	調査面積	調 査 期 間	主 な 時 代
補助事業 市内遺跡発掘調査事業	法領屋敷遺跡	農業用倉庫建築	八戸市大字櫛引字外川	20 m <sup>2</sup>	4月13日	縄文
	法霊林遺跡	集合住宅建築	八戸市大字根城字西ノ沢	130 m <sup>2</sup>	4月14日～15日	古代
	稲荷後(3)遺跡	個人住宅建築	八戸市市川町字稲荷岱	30 m <sup>2</sup>	4月14日～20日	縄文
	是川中居遺跡	範囲・内容確認	八戸市大字是川字中居	865 m <sup>2</sup>	5月11日～9月30日	縄文、弥生
	松館遺跡	個人住宅建築	八戸市大字松館字赤羽根	80 m <sup>2</sup>	7月22日～30日	弥生、古代、近世
	石橋遺跡	宅地造成	八戸市大字新井田字長宝野	300 m <sup>2</sup>	7月26日～27日	古代
	田面木遺跡	個人住宅建築	八戸市大字田面木字外久保	60 m <sup>2</sup>	10月4日	古代
	市子林遺跡①	長芋作付け	八戸市大字妙字古戸	670 m <sup>2</sup>	4月19～5月31日	古代、近世
	市子林遺跡②	長芋作付け	八戸市大字妙字油久保	1,350 m <sup>2</sup>	10月12日～28日	古代
	林ノ前遺跡	土取り・植林	八戸市大字尻内町字熊ノ沢	650 m <sup>2</sup>	9月1日～10月31日	古代
受託事業	田向冷水遺跡	土地区画整理	八戸市大字田向字冷水	20,000 m <sup>2</sup>	5月10日～10月29日	旧石器、縄文、古代、近世
	法霊林遺跡	集合住宅建築	八戸市大字根城字西ノ沢	230 m <sup>2</sup>	5月10日～14日	古代



《平成 16 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

- 第 106 集 法霊林遺跡・集合住宅建設工事に伴う発掘調査報告書
- 第 107 集 是川中居遺跡 4
- 第 108 集 八戸市内遺跡 21

《調査組織》

八戸市教育委員会 主事兼学芸員 杉山 陽亮  
 教育長 菊池 武 主事兼学芸員 船場 昌子  
 教育部長 石橋 雄 嘱託員 福士 明日香  
 教育部次長 佐藤 浩二 《文化振興班》  
 文化課 主 幹 貝吹 和子  
 課 長 工藤 竹久 主 査 佐藤 顕一  
 課長補佐兼文化振興班長 石塚 勝栄 主 事 気田 一彦  
 《埋蔵文化財班》 主 事 根城 昌代  
 班 長 佐々木 浩一 《縄文の里整備推進室》  
 主 幹 村木 淳 室 長 竹洞 一則  
 主査兼学芸員 小保内 裕之 主 幹 宇部 則保  
 主査兼学芸員 渡 則子 主任主査兼学芸員 大野 亨  
 主事兼学芸員 小久保 拓也 主任主査 久保 伝

掘りday はちのへ 第 8 号

発行年月日 2005 年 3 月 31 日

編集・発行 八戸市教育委員会文化課

〒 031 - 8686 青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号

TEL 0178 (43) 9156 (文化課直通)

E-mail bunka@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/shiryo/iseki/index.html

(八戸市ホームページ→資料室→遺跡)